

市民活動団体アンケート 結果報告書

平成 30(2018)年 7 月
流山市

目 次

| | |
|----------------|----|
| 1. 調査の概要 | |
| （1）調査の目的 | 2 |
| （2）調査の方法 | 2 |
| （3）調査項目 | 2 |
| （4）回収状況 | 2 |
| （5）報告書の見方 | 2 |
| 2. 調査の結果 | |
| （1）団体について | 3 |
| （2）協働について | 11 |
| （3）市のまちづくりについて | 18 |
| 3. 調査票 | 29 |

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

流山市では、平成32（2020）年度からスタートする総合的かつ計画的に市政経営を行うための計画、総合計画の策定を進めています。計画策定にあたって、市民参加手続の1つとして、市内で公益的な活動を行っている市民活動推進センター登録団体を対象に、活動における課題や、今後のまちづくりに対する考えを伺い、計画策定の基礎資料とするため、アンケートを実施したものです。

(2) 調査の方法

- ア. 調査対象 市民活動推進センター登録団体
- イ. 標本数 197団体
- ウ. 調査方法 アンケート調査：電子データファイル
- エ. 調査期間 平成30年5月1日送付、5月31日締切、7月10日最終締切

(3) 調査項目

- ア. 団体について
- イ. 協働について
- ウ. 市の街づくりについて

(4) 回収状況

- ア. 標本数 197票
- イ. 有効回収数 49票
- ウ. 有効回収率 24.9%

(5) 報告書の見方

比率は、全て百分率（%）で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%に満たない、あるいは超える場合があります。

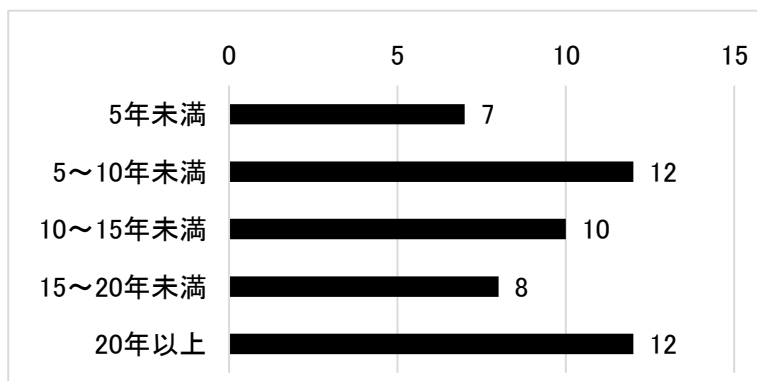
また、2つ以上回答してもよい設問については、合計の比率が100.0%にならない場合があります。

記述式の回答については、原則として原文のまま掲載していますが、特定の団体・個人に関する記述は掲載していません。

2. 調査の結果

(1) 団体について

問1 設立して何年になりますか。

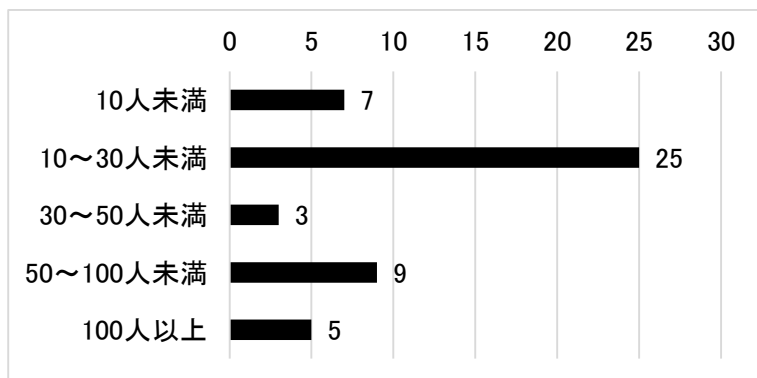


| | | |
|----------|----|-------|
| 5年未満 | 7 | 14.3% |
| 5~10年未満 | 12 | 24.5% |
| 10~15年未満 | 10 | 20.4% |
| 15~20年未満 | 8 | 16.3% |
| 20年以上 | 12 | 24.5% |

20年以上の長期間活動している団体が12団体あったほか、設立後5年未満の比較的新しい団体も7団体ありました。

団体の平均は、設立して、16.3年です。

問2 会員数は何人ですか。



| | | |
|-----------|----|-------|
| 10人未満 | 7 | 14.3% |
| 10~30人未満 | 25 | 51.0% |
| 30~50人未満 | 3 | 6.1% |
| 50~100人未満 | 9 | 18.4% |
| 100人以上 | 5 | 10.2% |

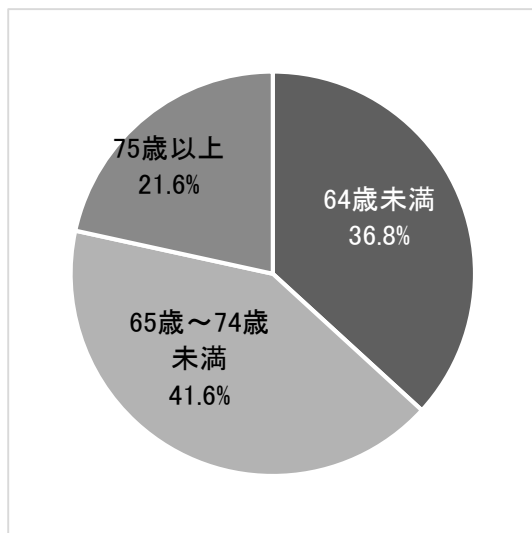
会員数は、約半数の団体が10人以上30人未満でした。比較的活動しやすい人数がそのくらいの規模と思われます。

また、100人以上の団体は5団体、10人未満の団体も7団体ありました。

団体の平均は、会員数65.3人です。

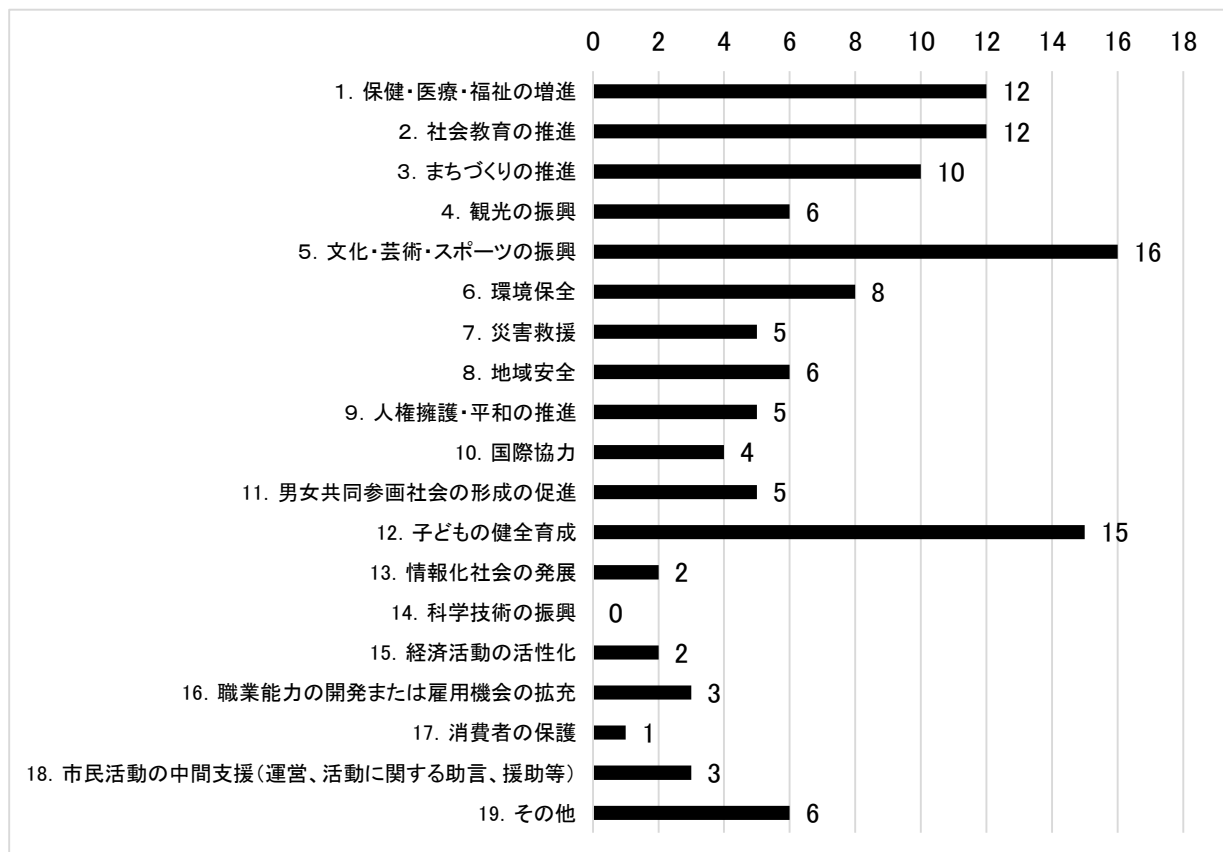
問2-2 うち65歳以上74歳未満の方は何人ですか。

問2-3 うち75歳以上の方は何人ですか。



団体の年齢構成は、全体の約63パーセントが65歳以上で、75歳以上も約22パーセントを占めており、全体的に高齢者が多いことがわかります。

問3 主にどのような活動をしていますか。あてまるものをすべて選んでください。

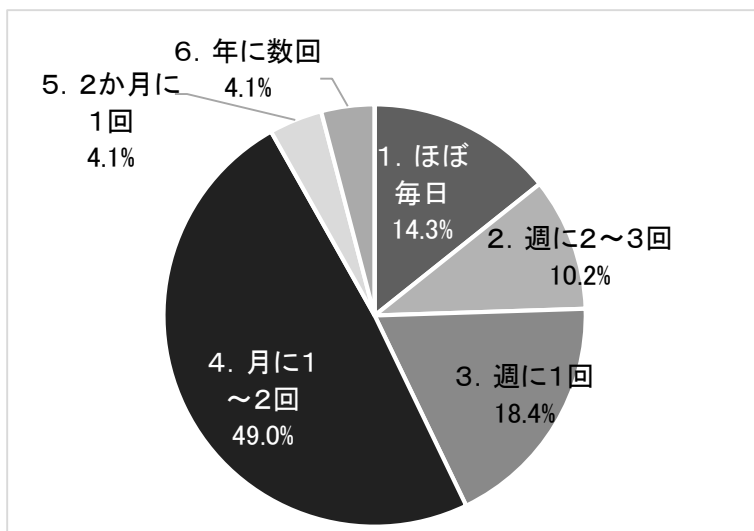


【その他】 ※ 原文のまま。

- ・公園マップ運営・イベント参加・秘密基地制作等
- ・地域公共交通問題
- ・会員の家庭生活の健全化。その研究を地域に広める。
- ・不登校児童生徒の居場所、学習支援 不登校の親の会
- ・有償ボランティア、介護保険事業、受託事業
- ・東日本大震災被災地への支援活動

活動分野は、「文化・芸術・スポーツの振興」が最も多く、次いで「子どもの健全育成」、「保健・医療・福祉の増進」、「社会教育の推進」と続いており、市民に身近な分野の活動が目立ちます。

問4 活動頻度はどれくらいですか。次の中から1つだけ選んでください。

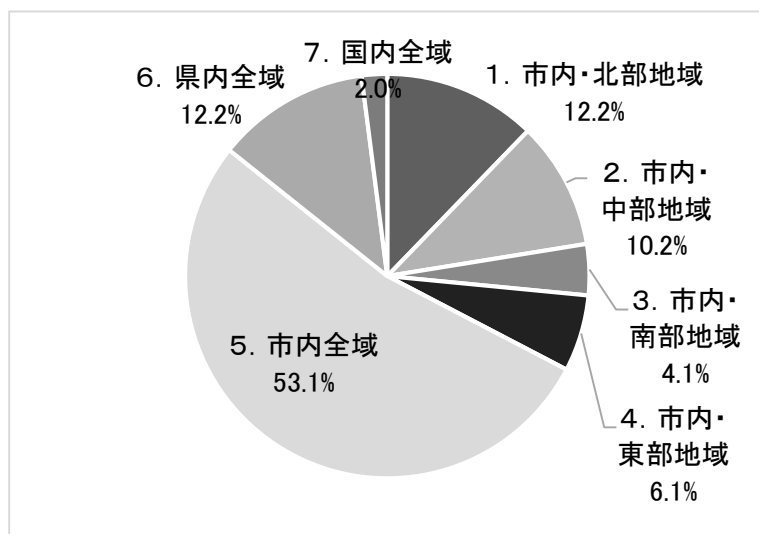


| | | |
|------------|----|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 7 | 14.3% |
| 2. 週に2~3回 | 5 | 10.2% |
| 3. 週に1回 | 9 | 18.4% |
| 4. 月に1~2回 | 24 | 49.0% |
| 5. 2か月に1回 | 2 | 4.1% |
| 6. 年に数回 | 2 | 4.1% |
| 7. 活動していない | 0 | 0.0% |

約半数の団体が、「月に1~2回」の活動頻度でした。

また、3割以上の団体が「週に1回」以上活動しており、アンケートに回答した団体は比較的活発に活動していることがわかります。

問5 主な活動の対象地域を教えてください。あてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。



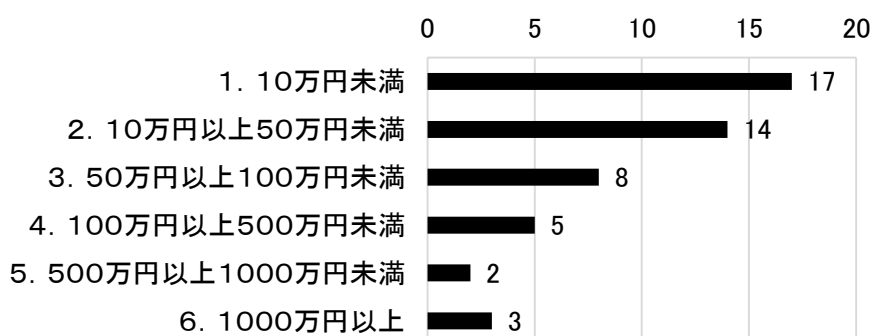
| | | |
|------------|----|-------|
| 1. 市内・北部地域 | 6 | 12.2% |
| 2. 市内・中部地域 | 5 | 10.2% |
| 3. 市内・南部地域 | 2 | 4.1% |
| 4. 市内・東部地域 | 3 | 6.1% |
| 5. 市内全域 | 26 | 53.1% |
| 6. 県内全域 | 6 | 12.2% |
| 7. 国内全域 | 1 | 2.0% |
| 8. 海外を含む地域 | 0 | 0.0% |

活動地域は、約半数の団体が「市内全域」を対象としています。

地域別には、「中部地域」から「北部地域」を活動地域としている団体が比較的多いことがわかります。

また、「県内全域」を対象としている団体も6団体ありました。

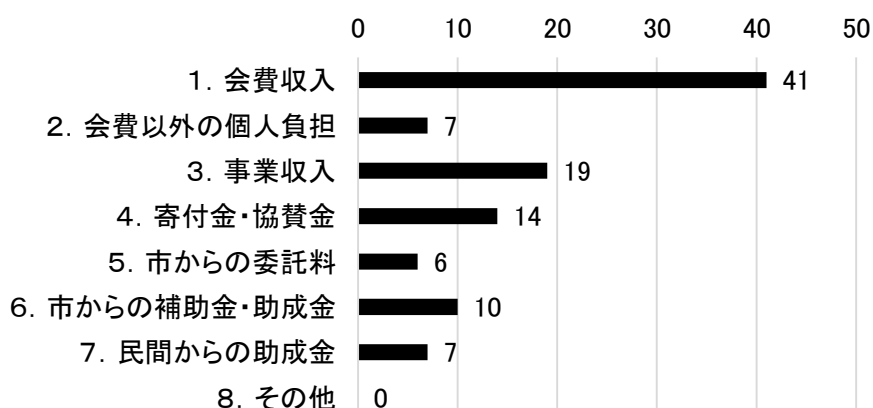
問6 おおよその年間支出額を教えてください。あてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。



| | | |
|--------------------|----|-------|
| 1. 10万円未満 | 17 | 34.7% |
| 2. 10万円以上50万円未満 | 14 | 28.6% |
| 3. 50万円以上100万円未満 | 8 | 16.3% |
| 4. 100万円以上500万円未満 | 5 | 10.2% |
| 5. 500万円以上1000万円未満 | 2 | 4.1% |
| 6. 1000万円以上 | 3 | 6.1% |

団体の年間支出額は、10万円未満の団体が最も多く、約3分の1の団体が該当しました。一方で、1,000万円以上の団体も3団体ありました。

問7 収入源を教えてください。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。また、収入源に占める割合が最も大きいものを選んでください。

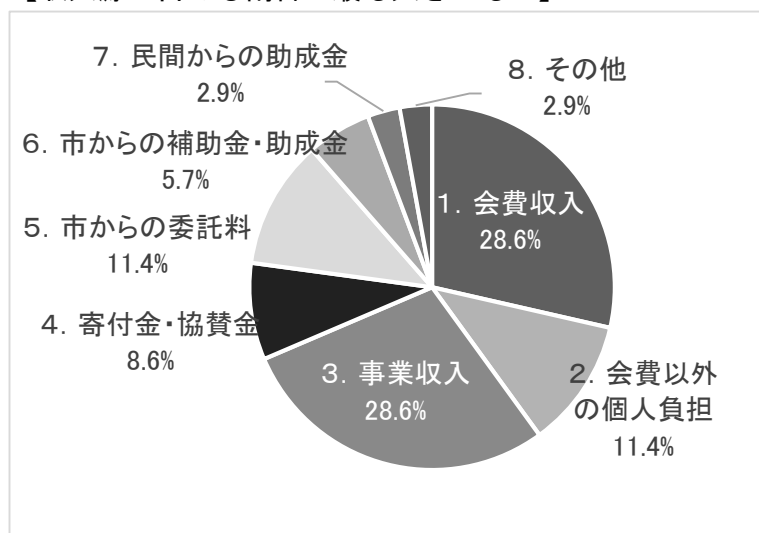


| | | |
|----------------|----|-------|
| 1. 会費収入 | 41 | 83.7% |
| 2. 会費以外の個人負担 | 7 | 14.3% |
| 3. 事業収入 | 19 | 38.8% |
| 4. 寄付金・協賛金 | 14 | 28.6% |
| 5. 市からの委託料 | 6 | 12.2% |
| 6. 市からの補助金・助成金 | 10 | 20.4% |
| 7. 民間からの助成金 | 7 | 14.3% |
| 8. その他 | 0 | 0.0% |

団体の収入源として8割以上の団体が、「会費収入」を上げています。

また、事業収入がある団体は約4割、市からの委託料や補助金・助成金がある団体は、約3割ありました。

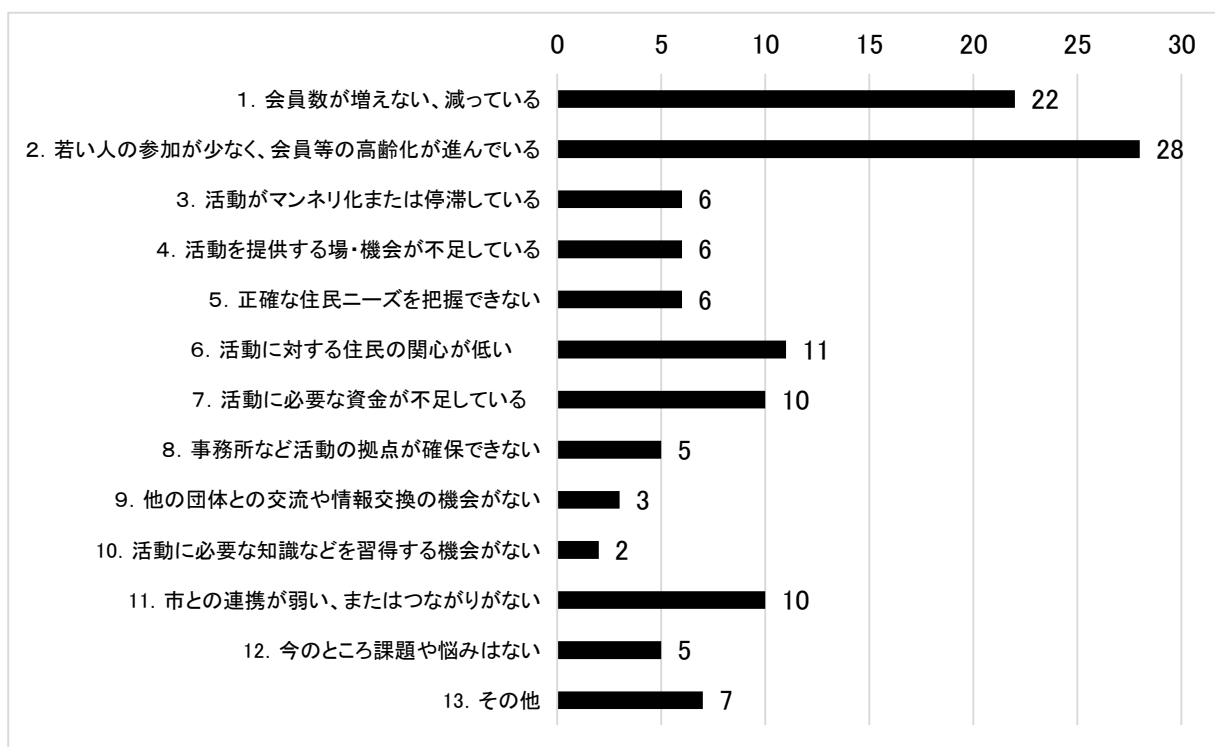
【収入源に占める割合が最も大きいもの】



団体の収入源として最も大きなものとして上げられているには、「会費収入」と「事業収入」でした。

また、「会費以外の個人負担」を上げている団体も4団体ありました。

問8 現在、貴団体が抱えている課題は何ですか。次の中から3つ選んでください。



| | | |
|-----------------------------|----|-------|
| 1. 会員数が増えない、減っている | 22 | 44.9% |
| 2. 若い人の参加が少なく、会員等の高齢化が進んでいる | 28 | 57.1% |
| 3. 活動がマンネリ化または停滞している | 6 | 12.2% |
| 4. 活動を提供する場・機会が不足している | 6 | 12.2% |
| 5. 正確な住民ニーズを把握できない | 6 | 12.2% |
| 6. 活動に対する住民の関心が低い | 11 | 22.4% |
| 7. 活動に必要な資金が不足している | 10 | 20.4% |
| 8. 事務所など活動の拠点が確保できない | 5 | 10.2% |
| 9. 他の団体との交流や情報交換の機会がない | 3 | 6.1% |
| 10. 活動に必要な知識などを習得する機会がない | 2 | 4.1% |
| 11. 市との連携が弱い、またはつながりがない | 10 | 20.4% |
| 12. 今のところ課題や悩みはない | 5 | 10.2% |
| 13. その他 | 7 | 14.3% |

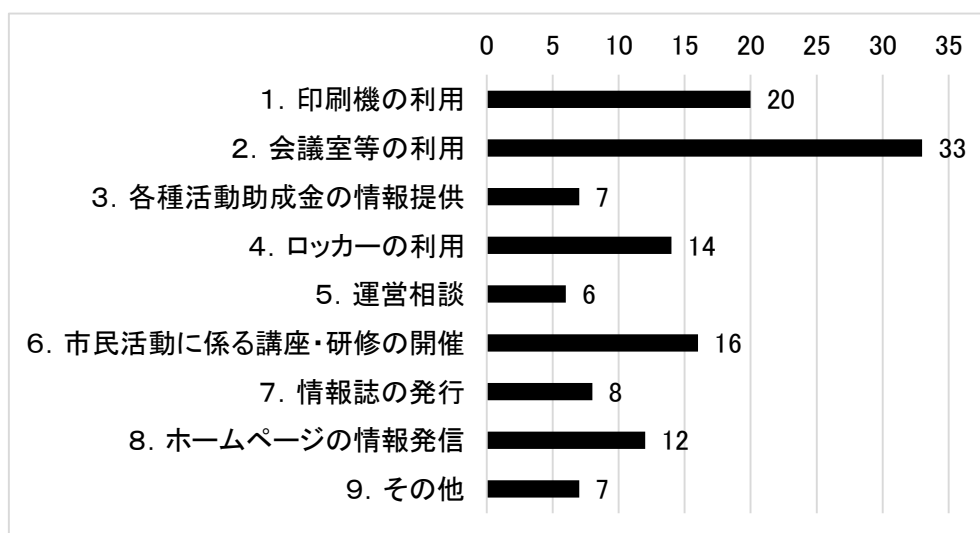
【その他】 ※ 原文のまま。

- ・若手が少なく後継指導者が育たない。
- ・施設内にタタミ 1 畳程度の備品保管倉庫が欲しい。
- ・会員数が増えているが、不足している。
- ・元来、高齢者団体であるが、さらなる高齢化。

- ・世代間交流を活発化したい。
- ・後継者不足（なり手がいない）と役員の高齢化
- ・不登校の情報が必要な人に届いていない。

団体の課題として半数以上の団体が上げているのは、「若い人の参加が少なく、会員等の高齢化が進んでいる」です。次いで、「会員数が増えない、減っている」が上げられています。

問9 貴団体が今後 流山市市民活動推進センターへ求めるものは何ですか。次の中から3つ選んでください。



| | | |
|--------------------|----|-------|
| 1. 印刷機の利用 | 20 | 42.6% |
| 2. 会議室等の利用 | 33 | 70.2% |
| 3. 各種活動助成金の情報提供 | 7 | 14.9% |
| 4. ロッカーの利用 | 14 | 29.8% |
| 5. 運営相談 | 6 | 12.8% |
| 6. 市民活動に係る講座・研修の開催 | 16 | 34.0% |
| 7. 情報誌の発行 | 8 | 17.0% |
| 8. ホームページの情報発信 | 12 | 25.5% |
| 9. その他 | 7 | 14.9% |

【その他】 ※ 原文のまま。

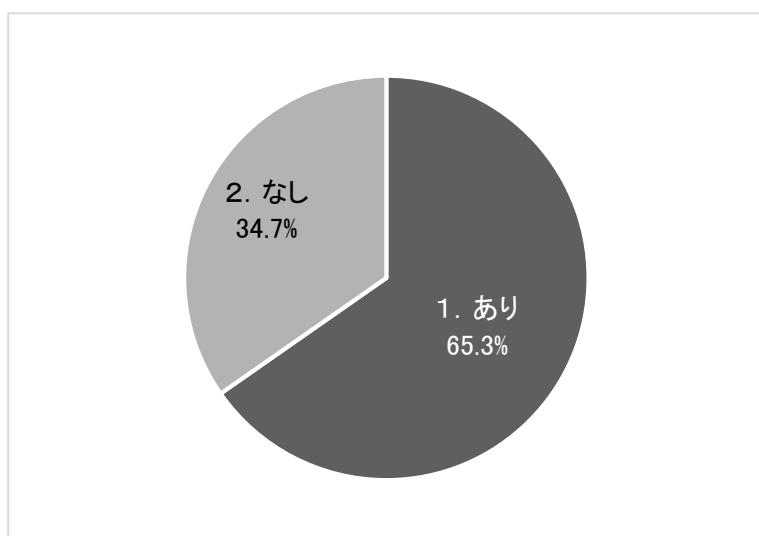
- ・ワイヤレスが使えるようになったことが最高です。
- ・施設内にタタミ 1 畳程度の備品保管倉庫が欲しい。
- ・（話が逸れますが）講座が平日昼間のため、参加できません。
- ・中間支援機能の強化

・ 学生向けイベントの開催

流山市市民活動推進センターへ求めるものについては、47団体から回答がありました。「会議室等の利用」が最も多く、次いで「印刷機の利用」でした。

(2) 協働について

問10 貴団体は、これまで市と協働による事業の経験はありますか。次の中から1つだけ選んでください。



市との協働による事業の経験は、6割以上の団体が「あり」と回答しました。

問10-2 問10で「1. あり」を選択された方は、関わった分野を具体的に教えてください。

【関わった分野】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

(都市基盤)

- ・ 案内サインの提案
- ・ 公園管理の受託

(市民環境)

- ・ 環境保全
- ・ ゆうゆう大学においてAED講習会実施
- ・ HUGの実施
- ・ 流山市防犯協会連合会業務受託 スズメバチの駆除

- ・市民祭りやフェスタで子供、大人に削り絵や油絵の一日体験を実施。
- ・シンポジウムの運営受託、イベント開催、生き物調査の受託
- ・「災害に強い地域づくり」実践プログラム交流会
- ・流山市民まつり実行委員会
- ・市民環境講座など
- ・セントラルパークフェスタの参加。
- ・市民活動推進センター運営
- ・環境保全、まちなか森づくり植樹

(教育・文化)

- ・子供の健全育成
- ・外国人相談、国際交流
- ・公民館の行事推進
- ・男性の料理教室の講師
- ・指定管理者制度による公民館運営
- ・流山ロードレース大会事務局業務・運営全般など
- ・流山市立博物館との共同企画展「市民が選んだ博物館資料～流山の産業・生活・文化～」
- ・流山市制施行50周年記念事業第九演奏会

(市民福祉)

- ・1度だけ老人大学卒業式のアトラクションを依頼され協力した
- ・流山市社会福祉協議会「赤い羽根70周年記念」創作童話に参加
- ・子育て分野
- ・保健センターから保健師さんに来て頂き、健康相談、育児相談を行いました。
- ・自立支援協議会への参加
- ・民生委員との研修会
- ・市内小中学校への手話教室開催
- ・千葉県生涯大学校；流山市高齢者支援課；流山市ボランティアセンター

(産業振興)

- ・外国人を対象にしたモニターツアーの実施
- ・音楽提供：森のマルシェ等
- ・日曜情報センターでの情報発信・見世蔵の運営

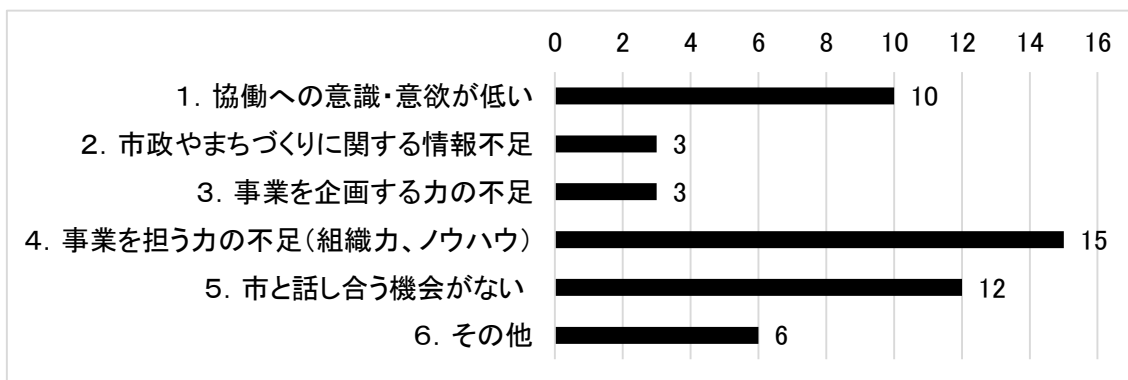
(その他)

- ・男女共同参画社会作り委託事業
- ・お祭り記録ビデオの撮影
- ・柏市民フェスタへの参加

- ・市民憲章づくり
- ・草の根団体から立ち上げた時から市との協働があります

問 1 1 市との協働を進めるうえで課題と思うことを教えてください。市民活動団体と市それぞれの課題として最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

《市民活動団体の課題》

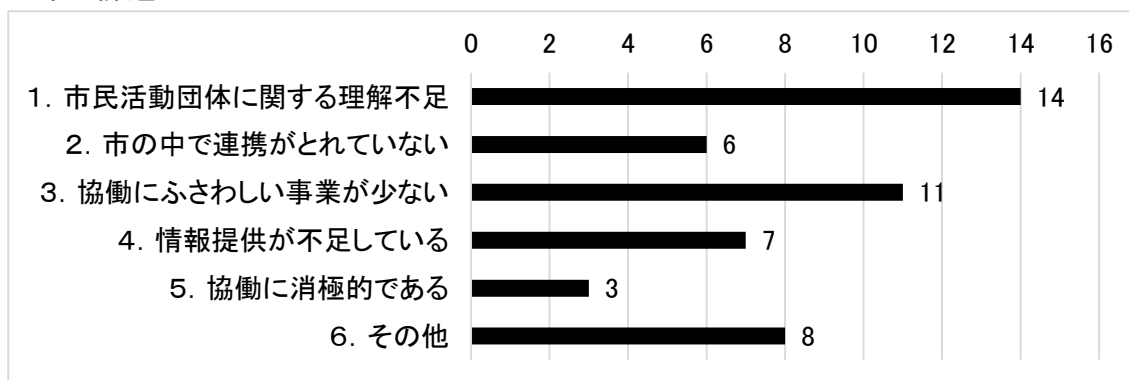


| | | |
|------------------------|----|-------|
| 1. 協働への意識・意欲が低い | 10 | 20.4% |
| 2. 市政やまちづくりに関する情報不足 | 3 | 6.1% |
| 3. 事業を企画する力の不足 | 3 | 6.1% |
| 4. 事業を担う力の不足(組織力、ノウハウ) | 15 | 30.6% |
| 5. 市と話し合う機会がない | 12 | 24.5% |
| 6. その他 | 6 | 12.2% |

【その他】 ※ 原文のまま。

- ・資金不足
- ・事業単価が高齢者宅が多く安価
- ・マンパワーの不足
- ・市民環境講座の集客力が課題
- ・市と協働する動機の不足

《市の課題》



| | | |
|-------------------|----|-------|
| 1. 市民活動団体に関する理解不足 | 14 | 28.6% |
| 2. 市の中で連携がとれていない | 6 | 12.2% |
| 3. 協働にふさわしい事業が少ない | 11 | 22.4% |
| 4. 情報提供が不足している | 7 | 14.3% |
| 5. 協働に消極的である | 3 | 6.1% |
| 6. その他 | 8 | 16.3% |

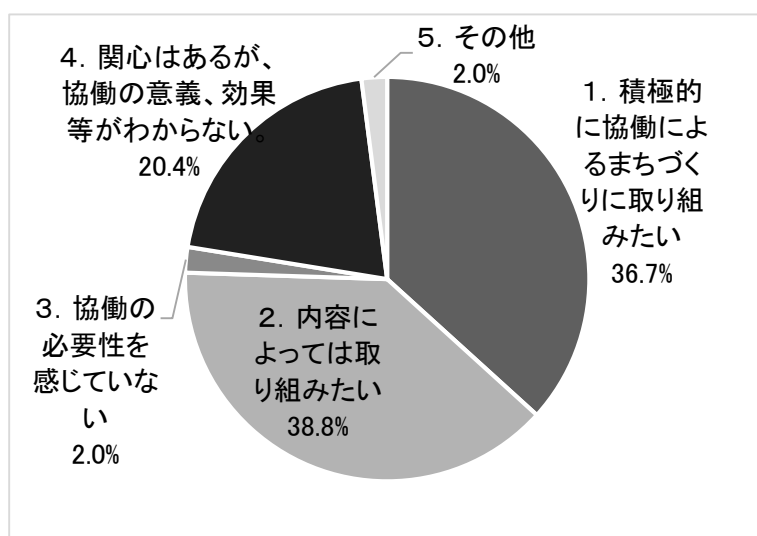
【その他】 ※ 原文のまま。

- ・ 協働ができていて、活動しやすくやりがいがある。
- ・ 行政が本来行うべきことがらが多い感じのわりに行政の感心が薄い感じがする
- ・ 事業についての理解不足
- ・ 上から目線を感じる時がある
- ・ 主な活動拠点は柏市内、よく分かりません
- ・ 市民団体と協働する動機の不足
- ・ 介護サポーター制度導入で大変迷惑している

市との協働を進めるうえで課題として、市民活動団体の課題とし、「事業を担う力の不足（組織力、ノウハウ）」、「市と話し合う機会がない」を上げています。

一方、市の課題としては、「市民活動団体に関する理解不足」、「協働にふさわしい事業が少ない」を上げています。

問12 協働によるまちづくりについて、どのように考えますか。次のなかから1つ選んでください。



| | | |
|----------------------------|----|-------|
| 1. 積極的に協働によるまちづくりに取り組みたい | 18 | 36.7% |
| 2. 内容によっては取り組みたい | 19 | 38.8% |
| 3. 協働の必要性を感じていない | 1 | 2.0% |
| 4. 関心はあるが、協働の意義、効果等がわからない。 | 10 | 20.4% |
| 5. その他 | 1 | 2.0% |

協働によるまちづくりの意向については、「積極的に協働によるまちづくりに取り組みたい」、「内容によっては取り組みたい」と取り組む意向がある団体は7割を超え、「協働の必要性を感じていない」は1団体でした。

一方、「関心はあるが、協働の意義、効果等がわからない」と回答した団体が約2割ありました。

問12-2 問12「1. 積極的に協働によるまちづくりに取り組みたい」、「2. 内容によっては取り組みたい。」を選んだ団体に伺います。取り組みたい分野を具体的に教えてください。

【取り組みたい分野】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

(都市基盤)

- ・公園管理の受託
- ・イベント企画・公園整備
- ・地域公共交通の充実について

(市民環境)

- ・ 環境保全をお互いに協調し、押し進めたい。
- ・ 防災関係 HUGの普及 AED操作の普及
- ・ シンポジウムの運営受託、イベント開催、生き物調査の受託
- ・ 地縁の再生
- ・ シェイクアウト訓練の普及と防災啓発活動
- ・ 音楽の提供を通じた、イベント等の雰囲気作りや、地域コミュニティの形成
- ・ 地球温暖化対策の実行
- ・ 環境、防災
- ・ 市、市民活動の協働を考える分野の活動
- ・ 環境保全 自然環境の保全と改善

(教育文化)

- ・ 文化・教育の分野
- ・ 子どもの人権擁護
- ・ 居住外国人支援、国際交流
- ・ 史跡・遺跡の調査確認と保全
- ・ 不登校に関する勉強会 特に教育機会確保法による公民連携の不登校支援活動
- ・ 流山市の芸術文化発展に資するもののうち、合唱音楽に関わるもの

(市民福祉)

- ・ 大人の居場所と放課後子供教室の合わせた運営（世代間交流を目指すため）
- ・ 高齢化社会において、健康寿命延長に貢献するべく、レクリエーション分野で協力したい。
- ・ 楽しみながら仲間と交流するのは健康にも良いと言われています。
- ・ 頭を使いながら身体を動かすダンスはボケ防止にもなります。
- ・ 月1回 健康目的の10ポイント姿勢、靴の履き方、歩幅測定、仲間を作り、楽しく歩く指導
- ・ 私たちの事業全て。私たちは子どもが生まれる前の妊娠前から、地域の子育てを支え、出産後も切れ目のない支援を目指し活動している。子ども子育て会議や、パブリックコメントで意見を出すこともあるが、協働という意味が行政と市民団体とで違うのかなという気がする。市民との協働事業について、同じテーブルで市と意見交換がしたい。
- ・ 子供の発達や育児の事、聞いてみたいと思っても、どこに連絡したらいいかわからなかったり、問い合わせをするのを躊躇される方がいます。
- ・ 福祉
- ・ 特に若い家族の生活が円滑に運営できるように、子どもの生活。食事、経済、収納など
- ・ 福祉分野：全世代が助け合い・支え合うまちづくりの実現 各世代の抱える課題を相互に理解し、共有化することでともに課題解決に協力し合うことで全世代で支え合い、助け合うまちづくりを目指す。

- ・ 障害者差別解消法が一般市民に広く展開、理解につながる活動
- ・ 知的障害者への理解啓発を通じ一人一人の違いを認めあえる共生社会への実現に向けた活動
- ・ 子どもに関わる分野
- ・ 初めての育児から、自分らしい仕事と家庭の上手な両立を見出すお手伝い

(産業振興)

- ・ 流山の魅力の発信事業
- ・ 流山を訪れる外国人がのびのびと街を満喫できるよう、ボランティア通訳を提供する事業の構築と活性化
- ・ 観光関連での情報発信・商品企画
- ・ 縦と横のワーキングマザーネットワークをつくること
- ・ 流山の土地感がない転入者にむけての初めての流山ツアー

(その他)

- ・ どのような街にしたいのか、行政と目指す街の姿を、市民は市民の力を発揮して、目標に向かって進みたい。行政の職員は数年で異動することが多く、市民の方がより深く知識を蓄積している場合がある。一方、行政は施設の管理や、予算、広い情報を持っている。お互いが得意な分野を出し合って、協働で取組むことによって、より住みやすい街づくりにつながると思う。
- ・ 実際に一日体験教室を実施するといつも結構人気で60名以上は参加してもらっていますが、その時だけで、よかったねの言葉だけで終わっています。何年もその繰り返しなので、無駄なことをしているのかもと思っています。
- ・ 様々な事業が混在してしまっている為に、把握する方はとても困難です。一度、整理していただきたいです。
- ・ 近所で行っているサークルでどこに連絡したらいいのか、窓口になればいいと思います。
- ・ 自分たちで出来る事があれば協力したい。

(3) 市のまちづくりについて

問13 貴団体からみた流山市の強み・弱みは何ですか。

【強み】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

(都市基盤)

- ・首都圏に近い自然環境豊かな地域
- ・T Xを中心にした都市づくり
- ・つくばエクスプレス線の開業と共に、新設した各駅周辺の発展が顕著である。
- ・緑が多い、T Xのおかげで都心に近い。
- ・歴史ある街並
- ・緑、自然が豊かである。

(市民環境)

- ・市民活動推進センターがあること
- ・市民参加の機運がある。
- ・地域活動が活発である。
- ・市民活動が盛ん
- ・市民活動が活発
- ・市民と行政の協働化の取り組みが従前から行われており、良好な関係が形成されている。
- ・主体的な市民活動団体があること

(教育文化)

- ・公民館等の公共施設が在る（数や広さ等に不満は残るが）。
- ・芸術文化への理解が深いこと。魅力ある市作りに積極的に取り組んでいること。

(市民福祉)

- ・子育て世代にむけた支援の充実
- ・福祉活動に助成金を支給してくれる。
- ・子どもの遊ぶ施設が充実している。
- ・福祉会館の充実

(産業振興)

- ・自然豊かな観光環境、史跡、樹木
- ・首都圏アクセス・子育て等地域ブランドの確立・おおたかの森地区や木地区周辺の開発による経済効果・活発な地域イベント
- ・昔からの観光資源が残されている・日本文化を味わえる。

(その他)

- ・ 地域への信頼度
- ・ 若い子育て世代が多い、活気がある。街作りに積極的な女性が多い。
- ・ 子供が増えている。
- ・ 会場があちこちにあるから動きやすい。今のところは運転してるので交通の便も良いと感じる。
- ・ 他市に比べて、人口の増加が見られる事は、非常に良いことです。
- ・ 若い世代の定着化
- ・ 歴史文化遺産と自然環境および新たな交通システムを生かした人と情報の流れ
- ・ 若い人口の流入、インフラの拡充、市民活動への理解
- ・ 子育て世代が多く集まってきている。
- ・ 子育て世帯の増加していること。(主に新たに移り住んできた)住民が、まちづくりに積極的な人が多いこと。
- ・ まち全体がコンパクトで、活躍している人の顔が見えやすい。他団体とつながりやすい。
- ・ 人口の増加
- ・ 人口増加と街づくりの進展で、発展の可能性はある。
- ・ 人口増加
- ・ 人とのつながり、伝統技術や地域のお祭りなど昔から引き継がれてきた文化を大事にしている所です。
- ・ 自然と子育てを大切に作る街
- ・ 発展しつつある町。新しい大型施設の建設
- ・ 子どもの比率が高いこと。
- ・ 若い世代の転入者が多い。子どものいる家庭が増えている。
- ・ 小さな市なので 細やかな対応ができる。
- ・ 心優しく、協力的な市民、美しい街づくり、まだ残る自然、都会と田舎のバランスが良い都市環境
- ・ 若い市民の増加により子育ての活動が増えた。
- ・ 人口が増加傾向に有ること。
- ・ 特に強みは見当たらない。

【弱み】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

(都市基盤)

- ・ 交通手段がなく、車が乗れなくなると活動が制限される地域がある。便利な地域と格差を感じる。
- ・ まちづくりに対しての意識の低さ、無関心
- ・ 急激な市街地開発による環境悪化
- ・ 市内を電車や道路が平行して走り、集約していく拠点がなんとなくぼやけている点
- ・ 近隣の市と比較して地域公共交通が弱い。

- ・急激な開発で、バランスのとれた発展が困難である。分散的な都市構造である。
- ・交通網の整備
- ・一部地域は勢いのある発展をしているが、そうでない地域もある。
- ・市街地区が分散しており、アクセスが良くない。

(市民環境)

- ・原発災害による汚染
- ・新住民の人と人とのつながりが弱い。
- ・市民活動が盛り上がりやすいムードである一方、持続的な活動にならないことがあること。
- ・市民活動団体の協働が少ないこと、若者世代の参画が少ないこと。
- ・若い方々の市民ボランティアを育てる市の体制

(教育文化)

- ・私達の団体が気軽に使えない施設も多い。(希望が届いていない高額施設が増加中?)
- ・団体の施設利用
- ・文化遺産の保全
- ・小中学生が芸術性の高い舞台に触れる機会が少ない。

(市民福祉)

- ・子育ての施設が後追い(無駄な箱物作り)
- ・子供や高齢者を含めた包括支援体制の確立
- ・旧市街地の高齢化
- ・医療・福祉の充実
- ・公園など子供の遊び場の内容が薄い。
- ・介護サポーター導入により真の福祉活動の邪魔をしている お金の世界になった なお柏市では福祉活動のボラ保険を市が付保している；流山は自己負担
- ・保育園整備以外の子育て政策

(産業振興)

- ・観光を生業とする商工業者の不足、および体験型観光施設、レストラン、土産物など観光インフラの不足
- ・観光資源や文化財が活かしていない。
- ・夜の観光が難しい・ベッドタウンのため自分の住む町に興味を持ちにくい・誘客ポイントが少ない。

(その他)

- ・資金不足
- ・独立した地域毎の核があり、連携が旨くゆかない。

- ・人の入れ替わりが多すぎる（人事異動）。
- ・世代間のギャップ
- ・お金がない。市の職員が足らなさそう。
- ・超保守的
- ・人口の増加
- ・分かりません。
- ・いい制度、取り組みが実施されているが、行政組織の横断的な繋がり・連携が希薄さらにPR不足
- ・関係機関、団体の連携や協働による取り組みの機会が少ない。
- ・急激な人口流入による制度、施設の不足
- ・特になし。
- ・社会的に少数派の活動がしにくい。
- ・特に無い。
- ・職員が変わりすぎて理解力が足りない。
- ・計画の斬新さ不足

問14 貴団体が期待する将来の流山市は、どのようなまちですか。具体的に教えてください。（3つ程度）

【将来の流山市】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

（都市基盤）

- ・緑多き町
- ・交通網の再整備（高齢化増）；グリーンバスなど
- ・車がなくてもどこへでも行けるようにバスの線路を網目のように増やしてほしい。（乗り換え線あり）
- ・市野谷の森公園を中心に自然環境が守られ、オオタカやキツネなどの生物と人間が共存できるまち
- ・緑と街づくりが調和した都市
- ・『都心から一番近い森のまち』の名の通り自由に遊べる森や公園の維持
- ・高齢社会に対応した公共交通対策の充実
- ・市内の移動に関し交通の便が悪すぎる バスの発着ルートを増やしてほしい。
- ・開発が進んでも土木・文化遺産を大切にす街
- ・緑や森をもっと感じられ、くつろげる。
- ・緑の保全
- ・自然や公園などの保全、保護、むやみに開発許可をしない。
- ・高齢者でも十分利用できる交通手段の運用

(市民環境)

- ・協働街づくり
- ・言葉だけでなく環境保全(緑を守る働き)による希少生物の保全
- ・災害に強い市 消防署等江戸川が氾濫した時に機能しますか？
- ・自然.豊かな環境
- ・行政とNPOが担当分野が明確で協働している例がたくさんある状態
- ・市民が活躍できる市政
- ・市民団体と行政との連携が活発
- ・市民ひとりひとりが、市民活動等を通じて活躍できる場、居場所が地域にある。
- ・まちづくりの担い手と受け手が交じり合っている。
- ・低炭素社会の構築に向け行政・企業・NPO・市民が協働するまちづくり
- ・自然と調和した低炭素都市
- ・自然環境の保存
- ・行政と、市民が協働で作る安心・安全のまち
- ・人と自然にやさしい町
- ・市民全員が一生を通じて地域コミュニティーに関わり続ける価値があるまち
- ・市、市民、市民活動団体が協働し価値ある地域コミュニティーを継続することができるまち
- ・防犯の強化；なぜ「流山市防犯協会連合会」を市に戻したのか、市民安全パトロール隊の再構築
- ・人と人がつながり、協力し、安心して暮らせるまち
- ・世代を超えてみんなで助け合える街
- ・市民活動がしやすい街（生涯学習センターのように施設が高いと利用しにくいので、安いところが良いです）

(教育・文化)

- ・「流山セントラルパーク」近郊の文化スポーツエリアの充実化
- ・スポーツ、運動広場の分散（集中を止めて各地区に設置）大きくななくてもよい。
- ・キックマンアリーナを改造して利用し易くして欲しい（冷暖房付きの体育館は魅力的）
- ・社会教育団体と小中学校との交流をもっと深めたい ⇔ 両者の相互理解の為にも
- ・子どもの人権が尊重されるまち
- ・野間土手の再現
- ・新しい施設が建設されているが、公民館は不足
- ・清潔な調理室のある公民館などが欲しい。
- ・歴史と文化が香る街
- ・多様な学びの場を積極的に受け入れる場所
- ・芸術文化に溢れる都市であること。

(市民福祉)

- ・ 子供と高齢者の世代間交流（空き家の活用） 100歳時代に向けた取り組み
- ・ シニアの連携
- ・ 子ども、高齢者、障害者の方々が、住みやすい街でいること。
- ・ 貧困家庭が増えないように、各家庭に対して細心の注意をはらうこと。
- ・ 三世代の支え合い。
- ・ 身近な自然環境に接することによって子供たちがのびのび成長できるまち
- ・ 子育てにふさわしく、弱者も老後も安心安全な都市
- ・ 地域医療連携の推進
- ・ こどもたちが、安全で伸び伸びと過ごせるあたたかいまち
- ・ 医療介護が充実したまちづくり
- ・ ワンストップで相談窓口がある（各部署でたらいまわしになりがち）⇒特に困難な人を支援するソリューションの充実
- ・ 子育て支援センター間と各地域を結ぶシャトルバスがある。（送迎STのバスを有効利用してはどうか。）
- ・ 健康寿命が長く、高齢者が生き生きと暮らす街
- ・ 世代の違う者同士がもっと交流がもてる。
- ・ 子育てから高齢者・障がい者まで皆で支え合い・助け合うまち
- ・ 高齢になっても障害者が安心して本人なりの生活が続けられる地域社会
- ・ 障害があることで差別・偏見を受けない地域社会
- ・ いつでもどこでも聴覚に障害を持つ人たちへのコミュニケーション保障が出来るまち
- ・ 高齢者増に伴う居場所作り（空き家の活用）
- ・ 放課後子ども教室の増設（空き家の活用）例；高齢者が宿題の支援を含めた世代間交流強化
- ・ 子どもの心が豊かに成長されるようなあたたかなまち
- ・ 子どもたちが、芸術、文化に触れる機会が多くあるまち
- ・ 子育てしやすい街
- ・ 子どもの遊び場（公園など）が豊富で住みやすい街

(産業振興)

- ・ 「流山おおたかの森」近郊の商業地域の広域化
- ・ 流山本町・利根運河の観光地化
- ・ 海外や都内在住の外国人が気楽に流山を訪問したくなるような街
- ・ 幅広い市民が外国人の流山滞在を支援するような街
- ・ 外国人と市民がともに流山の未来を語れるような街
- ・ 利根運河の整備と観光化
- ・ 滞在型の観光ができる街

(その他)

- ・人権が尊重され。だれもがいきいきと安心・安全に暮らせる街
- ・女性も男性も子育てや介護、地域活動をともに自主的にかかわれる街
- ・だれもがともに夢や希望が実現できる街
- ・市の職員の中に『施設を使わしてやっている』と高飛車で気まぐれで無理を言う者がいる
- ・公共施設の活用
- ・県民プラザのように施設利用者はみな平等に予定や予告を発信してほしい。（事業者が主ではなくしたい）
- ・子供、幼児にやさしいだけでなく住民みんなに優しい町になってほしい。
- ・少子高齢化に伴うバランスのとれた財政運営にあたることができる。
- ・弊団はこれからも流山市と共に活動していきます。倉庫など活動環境面の支援を頂きたいです。
- ・災害に強く、医療・福祉が充実した安心安全な都市
- ・豊かな緑に囲まれて、さまざまな文化を身近に楽しめるまち
- ・今後も若年人口が一定程度確保されている。
- ・世代を超えて触れ合う場とムードがある。
- ・講座などの一時保育のネットワークが十分にある（市の事業や説明会の保育などが足りないとき）。
- ・国籍や性による差別のない開かれた文化都市
- ・現状を更に発展させて欲しい。
- ・日本全国どこも同じでしょうが、生活者ファースト目線での街作り
- ・永く住み続け、自分の住む町に人が訪れたいくなるように、宣伝できる街
- ・自然が豊富で、歴史と日本文化が共存できる街
- ・次世代に誇れるふるさとづくり
- ・人権意識が高い市
- ・子どもと街と一緒に自分も成長できる街
- ・至る所で、まちのありたい姿を語る人と場がある街
- ・活気があること（若手人口、商業発展、など）。
- ・それぞれの世代で幅広く活躍できる都市であること。
- ・団塊の世代を動かすフォーラムを開いて魅力ある流山市にして欲しい。職員も外に目を向けて、考えて欲しい。
- ・子どもからお年寄りまで、住みやすい街
- ・地域による年齢構成比の極端な差を長いスパンで対応する。
- ・若い人達が、地域との繋がりを持つためのイベントや展示会等に率先して参加出来る態勢作り
- ・真に「都心から一番近い森の街」

問14-2 問14で回答した「貴団体が期待する将来の流山市」の実現に向けて、貴団体の活動を通して取り組めることはありますか。※ 市との協働の如何を問いません。

【団体として取り組めること】 ※ 原文のまま。カテゴリーは市で整理しています。

(都市基盤)

- ・ 里山の風景、自然豊かな環境の整備
- ・ 市野谷の森公園の早期実現
- ・ 市野谷の森公園の公園管理の受託
- ・ 公園マップの運営・イベント参加や企画運営
- ・ 市内の緑地比率の増大を図ること。市内公園の整備および拡充

(市民環境)

- ・ 市との協働は大いにあるが、市民団体への補助金又は助成金を期待したい。
- ・ 防災訓練など形だけではなく実践に即した訓練を希望
- ・ 生物多様性モニタリング調査の継続実施
- ・ 市野谷の森公園を中心とする観察会の継続実施
- ・ 市野谷の森のオオタカの繁殖活動保護の継続実施
- ・ 生物多様性についての啓発活動の継続実施
- ・ キツネ等の希少生物の保護活動の実施
- ・ シェイクアウト訓練の普及と防災啓発活動
- ・ 市民活動には無縁だった市民を、音楽を軸に地域活動に引っ張り込む。居場所を作る。
- ・ 音楽を通じたイベント等を開催し、地域のコミュニティを形成する（メイン）。
- ・ 登録団体の見本市的な活動展があれば、参加を検討したい。
- ・ 生涯を通じた地域コミュニティへの参画、および市民活動団体同士の協働

(教育文化)

- ・ キックマンアリーナを松戸市の森のホール21のように、市民団体が頻繁に利用できる施設にして欲しいと期待しているので、改造を希望しています。①～④は不便な点です。
 - ①会議室等が不足（大きなパーティーを開催するには男女の更衣室が確保できない）
 - ②体育館の中かすぐ外で飲物コーナーを確保したいが、今は制限が厳しくて不可
 - ③昼食を食べる場所が無い（メインアリーナの観覧席へは中から登れない）
 - ④アリーナと会議室の行き来が不便（毎回靴の履き替えが必要）

以上から以下の提案をします。

(1) アリーナ側の外に百人収容の部屋を2～3室追加し、アリーナと出入りし易くする
これができるれば、毎年10回程度、数百人参加の行事を開催できます。

- ・ 楽団のテーマでもありますが、市民の皆様へ音楽・吹奏楽の魅力をお楽しみ頂けるように、日々精進していきたいとおもっています。

- ・現在、2年に一回発行している創作童話の同人誌を、市内の図書館、小学校に無料で配布しています。これからも、地域の子どもたちが豊かにはぐくまれるよう、努力を続けていく予定です。
- ・会員は年齢の高い人が多いが、そのキャリアを生かして在住外国人の支援や国際交流の活動を、更に活性化したい。
- ・史跡や遺跡は、発掘物が存在した場所の特定と内容を明示した表示板の設置。野馬土手調査。運河の実態調査。
- ・東葛地方の歴史や文学、民俗、環境等の発表として、会報「におどり」と研究誌「東葛流山研究」を毎年発行、今年は36号を刊行しました。また、市民の親睦と文化の向上を目指し、歴史、文学散歩を実施。（流山のバスを利用）
- ・子どもたちの年齢に即した、芸術性の高い優れた、舞台芸術作品や体験活動の企画、コーディネート。また、子どもに関わる活動をしている人や団体とのネットワークづくりの協力。年々増えている不登校児童生徒に居場所と学習できる環境を提供し、それぞれの子どもたちの社会的自立を応援する。不登校の保護者対象の「親の会」を定期的開催し保護者の社会的孤立を防ぐ。
- ・自主公演、流山市文化祭への参加、公民館や福祉会館主催事業への参加、などを通じて流山市の芸術発展に寄与すること。
- ・現段階では市民音楽祭等の音楽に関する活動ですが、徐々に幅を広げていきたいと考えています。

（市民福祉）

- ・老人が増えてもその方たちが指導者となって子供たちに絵をおしえる「1日体験」は、実施するとわかるが受けている子供たち以上に先生役をしているお年寄りのほうが輝いています。自分を必要とされている実感が手に取るようにわかりそれが喜びに代わっているのだと思います。少し休んでくださいと言っても休んでくれません。油絵教室と削り絵教室の二つがあるのですが、どちらも下は3歳からやってくれます。鼻息荒く子供たちも興奮して描いています。お年寄りたちは手を拭いてあげたり出来上がった絵を誉めあったりして、笑い声にあふれています。幼稚園児、児童たちと両親たちとお年寄りが輪になって3時間ほど楽しく過ごせるコーナーができればいいなと思います。
- ・医療費削減（又は抑制）のための取組み。
- ・高齢者の経験、若い世代の活力の連携事業。
- ・子どもへの暴力防止活動を通して、子どもを核にして、地域のつながりを強めることができる。
- ・次世代を育成していく。
 - （1）①公共交通の手段を増やす
 - ②運転免許証返納対策の充実
 - （2）①かかりつけ医の増加と若返り
 - ②在宅医療の相談窓口

- ・グループのイベントでお母さんが特技を生かしたり、ボランティアグループの方に活躍して頂いています。子供や保護者との交流の場になると思います。
- ・昔ながらの子守り歌や手遊びなど伝えています。
- ・現在、介護保険制度改正後、住民主体の助け合い組織づくりを全国市区町村が一斉に取り組んでいる。同様に流山市でも取り組みがはじまっているが当会は草の根的にこれを支援している。当会は設立から14年の活動実績、確率した仕組みおよびノウハウを活かして住民組織づくりをNPOの立場で支援している。これは当会が設立当初、大変苦労した経験からこれから立ち上げる住民組織に。
- ・当会は、全市全地域に生活支援活動を実施しているが、担い手の配置が北部、中部地域に偏っているため、現在、東部、南部地域の市民支援組織づくりを支援している。結果、八木南地区、松ヶ丘地区などに市民組織が設立されて動き出している。これら市民組織の活動実績を成功事例として他地域（北部、中部）に住民主体の支援組織が設立されるよう支援していく。また地域の住民組織と今後連携して福祉のまちづくりのため、協働で活動する協議体を目指していきたい。
- ・市民への手話普及（実技だけでなく聴覚障害問題の理解）。
- ・初めての子育てで一杯一杯にも関わらず、仕事も短い時間で成果を求められる状況の中で、自分らしい両立のあり方をじっくり考える場を提供したり、地縁血縁もない転入者に対し、流山市の子育て環境に関する情報提供を行ったり、子どもと一緒に楽しめるスポットを案内する流山プチツアー等の活動を通じて、流山市とのつながりをつくることで、豊かな子育てと仕事の両立ライフを送っていただくこと。
- ・市民がボランティアに目覚めて地域を盛り上げるように会員を増やしたい。

（産業振興）

- ・政府観光局に登録をした善意通訳として、外国人の流山滞在を支援する。市民のニーズを把握して外国人を支援するボランティアの人の輪を拡大する。外国人の声、ともに体験した感想や意見を流山の今後に反映できるように生かしていく。
- ・お店の方や企業と一緒に何かしてもおもしろいと考えています。
- ・日曜情報センターをはじめとした観光情報の発信
- ・日本人、外国人向けのツアーの企画と実施
- ・観光関連施設の運営

（その他）

- ・こつこつと働くことによる地道な活動が大切、一度に多くを期待しない。
- ・私たちは男女共同参画の街、流山を目指して活動しています。大きな活動としては流山市から男女共同参画社会作りの啓発事業を受託しています。委託を受けて8年目になりますが、委託された講座終了生を自主グループで活動できるよう、情報や相談などを通して支援をしています。そのような女性たちが確実に街づくりにあちこちで活躍している姿を目にしたとき、私たちのやってきたことは間違っていないと自負しています。目指す街の姿

は、リーダーとなれる人作りが重要です。時間はかかりますが、一歩ずつ力のある女性たちがリーダーとなることによって、街は大きく変わると信じて、今後も行政とともに、しっかりと地に足のついた活動をしていきます。

- ・ 行政は自らの提案をしないで、出来るだけ静かにしていようという感じが大変します。もっといろいろなことに提案をしたり活動するようにお手伝いできれば考えます。
- ・ 基本的には、この描いたビジョンに向けた活動を行っているつもりです。
- ・ 団体の拡大を目標とせず、マイペースでの継続を旨とする。老後まで活動を続けることを目指す。
- ・ 私たちの事業は切れ目のない支援を目指し、行政の手が届かないところを支援している。「流山市後援」という文言だけでなく、公的支援に近い市民活動には活動費を支援し、活動を後押ししてはどうか。
- ・ 市民目線で協働できる団体と自負している。
- ・ 苦勞をしないでソフトランディングしてもらうことを念頭においている。
- ・ 話し合いでは流山市と当団体と協働は可能です。
- ・ 活動を通して取り組めることではありませんが。年齢構成比の極端に偏った地域を無くしないと、住民の自治的な活動の継続が難しくなるのではないのでしょうか。余り大規模な開発は、人口構成を考慮しないと、長期に有効な公共投資に欠けるのではないのでしょうか。

3. 調査票

市民活動団体アンケート調査

ご回答にあたってのお願い

※ 回答にあたっては「マクロ」を有効にしてください。

○ご回答は、貴団体を代表する方等をお願いいたします。



○出来るかぎり、会員等団体の皆様のご意見をふまえて、お答えくださいますようお願いいたします。

○ご回答は、エクセルシートに入力していただく形式です。あてはまる番号の前の記号をクリックしてください。なお、お答えの中で「その他」を選択した場合には、カッコ内に具体的な内容をご記入ください。

○この調査の回答結果は、統計的に処理しますので、ご協力いただいた皆様にご迷惑をかけることは一切ありません。

○調査票へ入力後、お手数ですがメールにてご返送ください。

回答期限は5月31日(木)となっております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

| | | | |
|------------|--|---|--|
| 選択した状態 | <input checked="" type="radio"/> 選択肢 1 | <input checked="" type="checkbox"/> 選択肢 3 | 選択肢5  |
| 選択されていない状態 | <input type="radio"/> 選択肢 2 | <input type="checkbox"/> 選択肢 4 |  |

クリックすると選択肢が表示されます。

問5 主な活動の対象地域を教えてください。あてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。

- 1. 市内・北部地域
- 2. 市内・中部地域
- 3. 市内・南部地域
- 4. 市内・東部地域
- 5. 市内全域
- 6. 県内全域
- 7. 国内全域
- 8. 海外を含む地域

問6 おおよその年間支出額を教えてください。あてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。

- 1. 10万円未満
- 2. 10万円以上50万円未満
- 3. 50万円以上100万円未満
- 4. 100万円以上500万円未満
- 5. 500万円以上1000万円未満
- 6. 1000万円以上

問7 収入源を教えてください。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。また、収入源に占める割合が最も大きいものを選んでください。

- 1. 会費収入
- 2. 会費以外の個人負担
- 3. 事業収入
- 4. 寄付金・協賛金
- 5. 市からの委託料
- 6. 市からの補助金・助成金
- 7. 民間からの助成金
- 8. その他 ()

最も大きな収入源 ▼

問8 現在、貴団体が抱えている課題は何ですか。次の中から3つ選んでください。

- 1. 会員数が増えない、減っている
- 2. 若い人の参加が少なく、会員等の高齢化が進んでいる
- 3. 活動がマンネリ化または停滞している
- 4. 活動を提供する場・機会が不足している
- 5. 正確な住民ニーズを把握できない
- 6. 活動に対する住民の関心が低い
- 7. 活動に必要な資金が不足している
- 8. 事務所など活動の拠点が確保できない
- 9. 他の団体との交流や情報交換の機会がない
- 10. 活動に必要な知識などを習得する機会がない
- 11. 市との連携が弱い、またはつながりがない
- 12. 今のところ課題や悩みはない
- 13. その他 ()

問9 貴団体が今後 流山市市民活動推進センターへ求めるものは何ですか。次の中から3つ選んでください。

- 1. 印刷機の利用
- 2. 会議室等の利用
- 3. 各種活動助成金の情報提供
- 4. ロッカーの利用
- 5. 運営相談
- 6. 市民活動に係る講座・研修の開催
- 7. 情報誌の発行
- 8. ホームページの情報発信
- 9. その他 ()

【協働について】

協働とは、市民・事業者・行政など異なる立場の者がそれぞれの特性と立場をお互いに理解・尊重し、共有する地域社会の課題解決に向け連携協力することにより相乗効果の上がる行動をいいます。

問10 貴団体は、これまで市と協働による事業の経験はありますか。次の中から1つだけ選んでください。

1. あり 2. なし

問10-2 問10で「1. あり」を選択された方は、関わった分野を具体的に教えてください。

関わった分野

[Yellow box for answer]

問11 市との協働を進めるうえで課題と思うことを教えてください。市民活動団体と市それぞれの課題として最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

《市民活動団体の課題》

1. 協働への意識・意欲が低い
 2. 市政やまちづくりに関する情報不足
 3. 事業を企画する力の不足
 4. 事業を担う力の不足（組織力、ノウハウ）
 5. 市と話し合う機会がない
 6. その他（ ）

《市の課題》

1. 市民活動と協働に関する理解不足
 2. 市の組織内で連携がとれていない
 3. 協働にふさわしい事業が少ない
 4. 情報提供が不足している
 5. 協働に消極的である
 6. その他（ ）

問12 協働によるまちづくりについて、どのように考えますか。次のなかから1つ選んでください。

1. 積極的に協働によるまちづくりに取り組みたい
 2. 内容によっては取り組みたい
 3. 協働の必要性を感じていない
 4. 関心はあるが、協働の意義、効果等がわからない。
 5. その他（ ）

問12-2 問12「1. 積極的に協働によるまちづくりに取り組みたい」、「2. 内容によっては取り組みたい。」を選んだ団体に伺います。取り組みたい分野を具体的に教えてください。

[Yellow box for answer]

【市のまちづくりについて】

本市では、平成32年度からの次期総合計画の策定を進めています。
そこで、今後のまちづくりについて貴団体のことについて伺います。

問13 貴団体からみた流山市の強み・弱みは何ですか。

| | |
|----|--|
| 強み | |
| 弱み | |

問14 貴団体が期待する将来の流山市は、どのようなまちですか。具体的に教えてください。(3つ程度)

| |
|--|
| |
| |
| |

問14-2 問14で回答した「貴団体が期待する将来の流山市」の実現に向けて、貴団体の活動を通して取り組めることはありますか。※市との協働の如何を問いません。

| |
|--|
| |
|--|

問15 差し支えなければ、団体名を教えてください。

| |
|--|
| |
|--|